



「わが村は美しくー北海道」運動 第9回コンクール大賞 表彰式・交流会 参加しよう・広げよう・いいもの伝えよう

国土交通省北海道開発局農業水産部農業振興課

北海道開発局は、道内各地で取り組まれている地域の魅力と活力を高めようとする住民主体の活動に光を当て、これを広く発信し波及させていくことによって、農山漁村のさらなる発展に寄与することを目的に、「わが村は美しくー北海道」運動を推進しております。その一環として、平成13年度からこれまで2年に一度のコンクールを開催しています。

第9回目となる今回のコンクールは、平成30年3月に募集を開始し、道内59の市町村から61団体の応募がありました。

コンクール1年目の平成30年度は、全道10のブロック毎に応募団体の現地調査を行い、審査選考の結果、地域の活性化や個性的で魅力ある地域づくりにおいて優れた活動を行っている、優秀賞13団体と奨励賞21団体を選考し表彰しました。

さらに、コンクール2年目となる令和元年度には、優秀賞13団体の中から、特に先導性・モデル性の高い活動を行う2団体を大賞として選考するとともに、今後とも活動の継続を期待する2団体に審査委員特別賞が贈られることとなり、11月11日に北海道立道民活動センター「かでる2・7」で、表彰式と交流会を開催しました。

表彰式では、「大賞」である、(1)障がい者雇用による農作業などの人材確保と地域文化の良さを取り入れながら継続的に地域の活性化に取り組んでいる「特定非営利活動法人サトニクラス（月形町）」、(2)「村をもっと元気に!」を合言葉に、野菜のスイーツ開発を野菜の栽培、食育、商品開発、販売までを一貫した流れで行っている「北海道真狩高等学校（真狩村）」の2団体に北海道開発局津垣局次長より表彰状が授与されました。

また、「特別賞」である、(1)地域内で食農教育を推進し、食へのありがたみと感謝の心を持った子どもを育てる取り組みをしている「北海道中標津農業高等学



大賞表彰状授与「特定非営利活動法人サトニクラス（月形町）」



北海道真狩高等学校（真狩村）の活動報告

校マネジメント研究班（中標津町）、(2)「漁業体験」や「漁家民泊」などによる地域の活性化と地域所得向上を目指して取り組んでいる「歯舞地区マリンビジョン協議会（根室市）」の2団体に大賞審査委員長の中井和子氏より表彰状が授与されました。

大賞審査委員長からの講評では、大賞候補となった13団体の活動が、何れも地域が主体となった大変魅力ある内容のものばかりであったこと、そして、大賞を審査選考する視点として、(1)活動の具体的な成果、効果が顕著であること、(2)活動の内容に「先進性」、「継続性」、「広がり」などの特性を持っていること、(3)「村づくり」という活動の中で「景観」、「地域特産物」、「人の交流」の要素がバランスよく機能していること、について、審査委員の共通認識を図り選考を進めたことなどが説明されました。

つづいて大賞受賞の2団体の代表から活動報告があり、それぞれパワーポイントを使用して取り組みの経緯や創意工夫した点などが紹介されました。

最後に特別講演として、当運動の開始から長くご指導いただいている慶応義塾大学大学院システムデザインマネジメント研究科特任教授の林美香子氏からは

「農村と都市を結ぶ地域づくり～北海道の未来」と題して農業・農村の理解促進には食農教育などが重要であることや農と様々な分野との連携が大切であることについて講話をいただきました。

表彰式終了後には、NPO法人わが村は美しくー北海道ネットワーク主催による「交流会」が開催されました。

コンクール受賞団体をはじめ関係者100名余りが出席し、参加者同士による情報交換を行い、道産食材を使った料理や受賞団体の製造したスイーツや漬物などに舌鼓を打ちつつ、交流を深めました。

「わが村は美しくー北海道」運動は、「景観」「地域特産物」「人の交流」を3つの大きな柱として展開しています。この運動を通じ、北海道のたくさんの「いいもの」をできるだけ多くの人に伝え、世界に誇ることのできる私たちの豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことをめざしています。



林 美香子 氏
慶応義塾大学大学院
SDM研究科特任教授



表彰式終了後に行われた交流会



表彰式に出席の大賞、審査委員特別賞受賞者の皆さんによる記念撮影